

## 一般演題抄録

### 2) 統合失調症に伴う強迫症状に対する第二世代抗精神病薬とSSRIの併用による治療経験

宮崎大学医学部精神医学講座 ○長友 慶子  
鶴衛 圭一  
鶴衛亜里沙  
橋口 浩志  
植田 勇人  
石田 康

統合失調症の軽症化，寡症状化が指摘されている今日，統合失調症患者の不安，抑うつを主とする気分障害，慢性統合失調症患者にみられる強迫行為は統合失調症患者の社会復帰の足かせになっていることが考えられる。第二世代抗精神病薬とSSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）などの抗うつ薬の併用療法は，ここ数年で数々の症例報告がされてきたが，その数はまだ少なく，その功罪や是非について統一した見解は得られていない。今回我々は，第二世代抗精神病薬投与中の患者で洞察に乏しい常同反復的な強迫症状のみられた患者にSSRIを追加投与し，劇的な改善を認めた2症例を経験した。

1例目は発症より約15年経過した，幻聴内容の頻回の確認行為のある慢性期の統合失調症患者で，クエチアピンに加えてフルボキサミンを併用投与し，常同反復的な幻聴の確認行為が劇的に軽減した。2例目は，発症より数年経過した若年の統合失調症患者で，不潔恐怖，洗浄強迫が出現し，リスペリドンに加えてフルボキサミンを併用投与し，これらの症状が劇的に改善した。統合失調症患者の不安，焦燥，強迫症状

に焦点をあて、陰性症状の改善に効果があるとされる第二世代抗精神病薬にSSRIを併用し、どの程度の症状改善が得られるのか、統合失調症の神経症様症状に対するセロトニン神経系の関与を文献的に考察した。

また、抗精神病薬と抗うつ薬の併用は、多くの場合、それぞれCYP2D6活性を阻害することにより薬物代謝が阻害されそれぞれの血中濃度を上昇させる。しかし、これらは年齢や性別、遺伝素因など様々な因子により影響を受け、個人差も大きいことが報告されている。このため今後、症例を増やし検討する必要がある。